地質ニュース664号，13頁，2009年12月
Chishitsu News no.664, p.13 , December, 2009

若松鉱山の産業遺産群の認定を受けて

矢　田　治　美[1)]

若松鉱山が平成20年度経済産業省の「近代化産業遺産群続33選」に認定され，このうちStory 7「産業用としての耐火煉瓦製造の進展と原料開発の歩みを物語る近代化産業遺産群」のひとつとして取り上げられました．今後，若松鉱山が日南町の地域活性化につながれば大変嬉しいことだと思っています．多里地域は，化石や地質を研究する素材の豊富な地として，全国から多くの学者達がこの地を訪れており，それだけに魅力ある地域であります．明治時代から，クローム鉱山によって多里地域は活気にあふれ近年まで続いてきました．

日南町には，若松，広瀬，日野上（稲積鉱区含む）の3鉱山がありましたが，これらの鉱山から算出されるクローム鉄鉱石が，1925年～45年の全国シェアの47.5％を占めていた（経済産業省の資料による）といわれています．それが，外国の安い鉱石が輸入されるようになり，昭和の終わりから平成にかけて相次いで閉山となりましたが，その中にあって若松鉱山は平成7年まで操業が続きました．

このクローム鉱が発見されたきっかけは，明治26年・27年の湯河川の大洪水による災害復旧工事の際，地元の松尾鶴太郎氏（灰谷の鶴さん）が明治28年に鉱石を見つけたことにあり，その後，松江市の弓削田千吉氏によって試掘請願されたのが明治32年，クローム鉱石と確認されたのが明治33年外国人ブロードによってだったとあります．（「クローム鉄鉱発見人を求めて」（坪倉久嘉氏著書），山根林さんの記述から）．

現在の若松鉱山の施設跡を見ますと，かつての繁栄の姿がうかがえます．多里地域では若松鉱山だけでも最盛期100人以上の従業員が働き，多里の町並みは旅館，飲食店，劇場があり，省営自動車が通い貨物駅もありました．まさににぎやかな街を形成していました．多里地域はこの鉱山のお陰でうるおい，会社（(株)日本クローム）はいろいろな面で地域貢献をされています．旧・多里村の財政も税収が歳入の6割を占め，村民税や鉱産税がその主要をなしていました．日南町に合併になっても鉱産税は町の貴重な財源となり，鉱山の存在は大きかったことがわかります．また，日本の鉄鋼業の近代化にも大きく貢献したことを忘れてはなりません．しかし，全国の炭鉱，鉱山が物語っているように，廃鉱，閉鎖によってその地域では急激に街の灯が消えていってしまいました．

先人が苦労して発見・開発し，産業化し，多くの従業員が命をかけて働き，犠牲者も出る厳しい環境の下で，地域とともに歩んだこの鉱山の歴史を後世に残していくことは私たちの務めでもあります．今回若松鉱山が「近代化産業遺産」に認定されたことを契機に，地元まちづくり協議会でも真剣に議論されていますし，これまでかかわっていただいた多くの方々とともに，全国的にも貴重な資源とされるこの鉱山の有効活用の方策を検討してまいりたいと考えております．

YADA Harumi (2009)：We got a Heritage Constellation of Industrial Modernization of Wakamatsu chromite mine.

＜受付：2009年10月20日＞

1）鳥取県 日南町長

キーワード：近代化産業遺産群続33選，クローム鉱山，多里地域，鉱山の有効活用